

昭和59年度研究開発報告

研究開発課題	研究成果と今後の課題
<p>1. 学習方法研究班</p> <p>A. 私立大学通信教育用印刷教材の研究開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私立大学の通信教育用の印刷教材の構成や叙述の仕方を改善し、学習効果の向上を図ることを目的とする。 ・今年度は、中等教育原理のテキストに付ける「学習の手引」の内容、構成等そのあり方について検討が行われ、その実験用の原稿ができた。 ・来年度は、通信教育において実験的に試用し、その効果を研究することとしている。
<p>B. マイクロコンピュータを利用した学習到達度セルフチェック及び補習システムの研究開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マイコンによる学習到達度セルフチェック及び補習システム（いわゆるC A I）の開発を放送大学番組について実施した。 ・学習到達度をチェックするための多肢選択問題（75題）の作成 ・学習センター又は自宅のスタンドアロン型マイコンで学習できるソフトウェアの開発 ・電話回線によりホストコンピュータから教材を転送して、自宅で学習できる通信ソフトウェアの開発 ・マイコンを持たない学生のための、スクランブルブックの作成 ・これらの成果は、4月から学習センターにおいて実験的に使用する計画としている。
<p>C. 語学科目におけるオーディオ副教材の研究開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験番組「中国語」についてオーディオテープを使用した通信添削（計5回）を実施し、スクーリングにおいて、この試みに対する意見を聴取した。 ・これらの意見を参考として、番組の主任講師、添削の担当

	<p>者とオーディオ副教材の学習継続に与える効果、今回の出題した添削問題の適否等について評価、分析した。</p> <ul style="list-style-type: none"> これらの内容については逐次整理し通信添削の継続状況とそれにみられる傾向、成果とともに報告する予定である。
<p>2. 番組制作改善研究班</p> <p>A. モニター及び研究分担者による特定の大学放送教育実験番組の視聴、分析及び評価</p> <p>B. モニターに対する高密度のアンケート調査、学習指導及び学習効果測定</p> <p>C. 主任講師及び担当ディレクターへのインタビュー方式による、制作実態の調査及び制作改善システム化への研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> 番組制作改善研究の一環として、実験番組のモニターに対し、通信により高密度アンケート及び添削指導を実施しあわせてモニターの意見を聴取し、番組の継続性に与える影響等について調査分析した。 制作実態の調査及び制作改善システム化については、主任講師と担当ディレクターに2回にわたりインタビューを実施し、改善のための指標としてまとめている。 これらの成果は、中間報告として『MME研究ノート』13号で発表したが、全体のまとめとして、「調査研究の報告書」を作成する予定である。
<p>3. 特別プロジェクト研究班</p> <p>A. コース・チームによる各メディアの特性を生かした放送番組、テキスト、必読副読本、テスト問題等パッケージ教材の制作研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> 放送大学専門科目『宗教理論と宗教史』のパッケージ教材の作成をコースチームによって行なった。 印刷教材は、学習者が教材の中に用意された設問に答える作業を通して対話しながら学習を進めていく方式の教材とした。 テレビ番組は、学習者に学習の積極的動機付けを与えるよう映像を豊富に使い、また、大学での演習形式をとりいれ各方面専門家をゲストとして呼び、専門の知識を学習者に与えられるよう配慮した。
<p>B. コンピュータ・リテラシー教育に関する共通教材となるプログラム・パッケージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海外のコンピュータ・リテラシーの映像教材を収集し、視聴分析を行なった。 これらの教材を参考にして、コンピュータ・リテラシーの

<p>の試作及び試行的研究</p>	<p>映像教材を15本試作し、Hi-OVISにおいて、視聴学習実験を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般の成人学習者が、コンピュータに関するどのような事柄を知りたいと思っているかについてHi-OVISの双方向機能を利用して調査した。 ・今後は、この成果をもとに更に試作番組の開発を行うこととしている。
<p>C.外国の放送教育機関との番組の共同制作・放送による事例開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共同制作のプロデューサーとなるべき機関を決定し、番組制作の打ち合わせを開始した。 ・最初の段階としては、日本の教育について数本試作し、アメリカのPBS系放送局で放映する予定になっている。 ・今後はPBSと制作に関する具体的な打ち合わせを進める予定である。
<p>D.CATVを利用した試作パッケージによるデリバリーの研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・双方向CATVであるHi-OVISを利用して、「教育と社会」「宗教理論と宗教史」「コンピュータと社会」の3コースの視聴学習実験を実施した。 ・ビデオ教材の視聴、双方向の質疑応答、面接指導、テンキーによる評価等の各種実験を実施した。 ・今後は、遠隔教育への活用の可能性について検討を進めることとしている。
<p>E.コンピュータの機能を生かしたパッケージ教材の研究開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教官により、テレコンピューティングによる遠隔教育機関であるエレクトロニック・ユニバーシティとAOU/NYITを視察した。 ・学習方法を調査・研究するために、本センター教官をAOU/NYITに入学させ、テレコンピューティングによる学習を実施している。 ・来年度は、試行的システムをセンター内に設け、更に研究を進めることとしている。

<p>4. 公開講座等研究班</p> <p>A. 大学教育の社会へのサービス機能の強化の具体化について地方公共団体との連携実業界との協力の可能性を研究</p> <p>B. 研究開発講座の大学への活用の可能性と問題点研究</p> <p>C. 多様な視聴者への普及と番組編成の効率化を研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・放送公開講座については、実施している7大学において独自の調査研究を行うこととしている。 ・大学の社会へのサービス等については、北海道大学をはじめ各大学で地方公共団体と連携しての研究を進めている。 ・大学への活用について今年度は数大学でその試みを行い、また、広島大学では大学の授業科目としての番組の研究開発を行った。 ・大学への授業番組の活用という観点から同一地域の数個の大学が共同して授業に活用するための予算が2地域措置され、これから具体的な研究をすることとしている。 ・なお、これらの成果は、放送公開講座のシンポジウムで発表される予定である。
<p>5. 資料システム研究班</p> <p>A. 映像資料、音声資料及び情報資料の整備計画の策定</p> <p>B. 映像資料、音声資料及び情報資料の収集、管理及びサービスの総合システムを開発</p> <p>C. 映像資料、音声資料及び情報資料の検索及び利用方法を開発</p> <p>D. 内外の遠隔大学のカリキュラム及び使用メディアについて調査研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料システムを検討する上で参考となる関連機関展示会等を訪問し、その概要を調査した。 ・資料の整備計画を策定する上で、ワーキンググループによる検討を進め、資料収集の取り進め方についての提案を行った。既にテープ等の保存については一部実施に移されている。 ・研究資料棟の完成に伴う、資料に関する施設設備の配置、購入計画等を策定した。 ・今後は、資料整備のための体制作り及び一部業務の電算処理化について検討することとしている。
<p>6. 教材開発研究班</p> <p>A. 高等教育番組の制作にかか る基礎理論の研究</p> <p>B. 高等教育機関と協力して、 ビデオ教材及びオーディオ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、教員養成系大学・学部教育実習の事前指導番組の開発と高等専門学校の「生物」について開発に着手した。 ・教師教育については、教育工学センター関係者、私立大学

<p>教材のニーズを調査し、これらのニーズに対応した教材の開発と共同制作</p> <p>C. 高等教育機関のためのマルチメディア補助教材（ビデオ教材等）の開発研究</p>	<p>の教育実習関係者等で組織作りを行い、既に教育実習場面のロケ等を実施し、制作段階に入っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、番組制作に当たってニーズの調査も実施した。 ・来年度以降は、授業番組として試行的学習実験を行うこととしている。 ・高専の教材としては、工業に関する技術者の養成の観点からカリキュラム上バイオテクノロジーが欠けている。 ・これをビデオ教材化し高等専門学校のカリキュラムで使用したいとしている。 ・これについても、国立高等専門学校協会を通じて推薦されたワーキンググループにより、高専における「生物」の内容、レベル等、大学の生物学の識者の参画を得て検討に入っている。 ・来年度からビデオ教材の構成の検討に入り、具体的な教材の制作にかかることとしている。
<p>7. ニューメディア研究班</p> <p>A. ニューメディアを活用した遠隔教育システムの研究開発</p> <p>B. コンピュータを利用した個別学習指導方法の研究開発</p> <p>C. テレカンファレンスシステムによる学習指導方法の研究開発</p> <p>D. その他ニューメディアの教育利用に関する研究開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューメディアの高等教育への利用について、ニューメディアを実際に利用している民間の機関や大学の識者から情報を聴取し、検討を進めている。 ・今後は、ニューメディアを活用した遠隔教育システム、コンピュータを利用した個別学習指導方法、テレカンファレンスシステムによる学習指導方法の研究開発等について、具体的な調査研究に入ることとしている。